書見台

世界図書館巡礼
―東西文化交渉の書籍を求めて（4）―
バチカン図書館・リヨン市立公共図書館

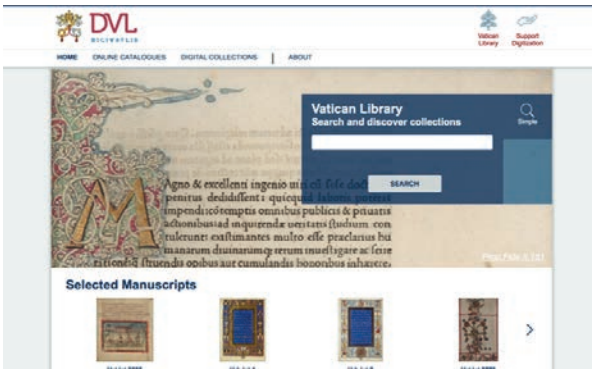
内　田　慶　市

1．バチカン図書館

バチカン図書館については、前回の「世界図書館巡礼―東西文化交渉の書籍を求めて（3）」で詳しく述べたが、今回は、その続編として、関西大学とバチカン図書館の間でデジタル化に関する「協定」が結ばれたことについて述べておく。

バチカン図書館にはヨーロッパの文献だけでなく、実は中国や日本を中心として、更に、朝鮮、ベトナム、チベット、モンゴル、満洲等他のアジア諸国の文献資料も多く所蔵されている。このうち、中国関係の文献資料に関しては、キリスト教関係、西洋科学関係、中国古籍関係、辞典関係、芸術関係など約1,300点余りが所蔵されており、これについては、すでに北京外国語大学とローマ大学によってほぼデジタル化（写真撮影）が完了し、それは「梵蒂岡圖書館藏明清中西文化交流史文獻叢刊」（大象出版社）という形で4輯に分けて出版される（計画では全部で300冊）予定であり、すでにその第1輯44冊が刊行されている。これらの文献は近代における東西文化交渉史、キリスト教史、翻訳史、言語史等々の研究に極めて有益なものである。が、いかんせん、中国の出版社との契約の関係から、現在は、紙ベースのものだけで、ウェブ上での公開には至っておらず（書籍として全部出版された後で電子版が公開される予定）、デジタル化の時代にあって誠に残念なことである。

一方、バチカン図書館所蔵文献資料のデジタル化については、2014年からNTTデータがバチカンと契約を結び、とりあえず3,000冊の文献を対象としたデジタル化プロジェクトをスタートさせており、現在、順次、バチカン図書館のウェブサイト上に「デジタルバチカン文庫（DigiVatLib）」（図1）として公開されている。将来的にはバチカン図書館に所蔵される約8万冊すべてのデジタル化を目指すというが、すでに4年を経た今、規模を縮小するようなことも耳にはしている。このNTTデータによるデジタル化プロジェクトは日本が世界に誇るべき画期的な事業といえる。しかしながら、唯一残念なことは、デジタル画像はアップされているが、その書誌情報（メタデータ）が不完全ないしは乏しいという点である。



（図1）

また、日本や中国以外のアジア関係の文献資料に関しては、あまりデジタル化は進んではいないという状況である。

ところで、私たちは2017年度文部科学省の私立大学研究ブランディング事業として「オープン・プラットフォームが開く関大の東アジア文化研究」が採択され、「関西大学アジア・オープン・リサーチセンター：KU-ORCAS」を起ち上げた。本センターは、関西大学が長い間、培ってきた、研究リソースのデジタル・アーカイブスを基盤として、新しい人文知の創造を目指し、世界に開かれたアジア研究のハブ的機能を備えた、オープンプラットフォームを形成し、世界のアジア研究を牽引していこうという目的で作られたものであるが、その中の一つの目玉がバチカン図書館とのデジタル化に関する協定（「バチカン図書館所蔵アジア関係文献整理・デジタル化に関する協定」）締結である。

これは、バチカン図書館と関西大学、ローマ大学、

北京外国語大学が、今後10年間、共同でバチカン図書館所蔵のアジア関係文献資料をデジタル化し、さらにそれらの整理、目録編集、解題（書誌情報等）を作成していくというものであり、こうした協定は日本の大学機関としては初めてのものである（図2）。



バチカン図書館所蔵アジア関係文献整理・デジタル化に関する協定

甲方：バチカン図書館
住所：Cortile Belvedere, 00120 Città del Vaticano
責任者：S.E.R. Mons. Jean-Louis Bruguès, O.P., Archivista e Bibliotecario di S.R.C
連絡先：Tel. 06 698 79530　Fax 06 698 79503
E-Mail：yu-dong@vatlib.it

乙方1：北京外国語大学比較文学人文交流高等研究院
住所：北京海淀区西三環北路2号
責任者：張西平　北京外国語大学比較文学人文交流高等研究院院長
電話：+86 13910383282
E-Mail：zhangxiping@263.net.cn

乙方2：関西大学東西学術研究所
住所：日本大阪府吹田市山手町3-3-35
電話：+81 663681121
E-Mail：u_keiichi@mac.com

（図2）

協定は2017年の9月に締結された（図3–4＝バチカン図書館副館長、ローマ大学マシーニ教授と）が、



（図3）



（図4）

まずは日本関係文献資料のデジタル化から始めていく予定である。

また、本協定に関連して2018年の2月には筆者がバチカン図書館館長のもとを訪れて、今後の協定の円滑化、デジタル化で期待される効果等について単独インタビューも行った。（図5）



（図5）

バチカン所蔵の日本関係文献資料に関しては、実は国文学研究資料館によって「マレガ・プロジェクト」が進行中である。これは、2011年にバチカン図書館で発見された来日宣教師マリオ・マレガ神父の収集したキリシタン禁制に関する約1万数千点の歴史的資料のデジタル・アーカイブスを目指したものであるが、それ以外にも以下のようなものが所蔵されていることが分かっている。

- Guia do pecador（ぎやどぺかどる＝罪人を善に導く書）……長崎のイエズス会のコレジオの印刷による木版（1606）
- 日本語によるキリスト教義書
- 長崎のキリシタンが当時のローマ法王（パウロ5世）に宛てた手紙
- Vocabulario de la lengua Japona（1631, Madrid）……olladoによる日本語字典
- Lettera a varie communita cristiane in Giappone.（1628）……フランシスコ会のDiego de San Francisco神父から日本のキリスト教団へ宛てた日本語の手紙
- 天正遣欧使節のベネチア共和国宛の手紙(1587)
- 葡日字典（Vocabulario da lingua portugueza）……17cのイエズス会士によるもの
- 日本の口之津の42人の信者による宣教師を守る決意書（1613.3.22）

- キリシタン殉教者名簿……1661–1672までの53人の名簿
- 大般若波羅密多経古写本、平安・奈良・室町・鎌倉時代の仏教写本
- 日本の舞踊の水彩画

他にも、16c–20c の日本文学や民俗関係、芸術作品なども所蔵されており、今後、こうした文献をデジタル化し、メタデータを作成して、バチカンの電子文庫に情報を公開していく予定である。また、日本関係以外のアジア諸国の文献についても徐々に作業を進めていくつもりである。

2. リヨン市立公共図書館（bibliothèque municipale de Lyon ＝ BML）

フランスではフランス国立図書館（BnF）が有名であるが、もう一つ忘れてならないのはリヨン市立図書館である（図 6）。Part–Dieu という駅の真ん前にある公共図書館であるが、ここには BnF に次ぐ貴



（図 6：図書館の前で）

重書が収められている。

今回はフランスのパリ東洋言語研究所の Joël Bellassen（中国名＝白楽桑）教授の案内で訪れることができたが、図書館の責任者が中国語もできる人



（図 7：図書館員の説明を受ける）



（図 8）

で、非常に助かった（図 7–8）。見たい本は原則全て見せてくれるし、写真も自由に撮っていい。これが世界標準、ヨーロッパ標準なのだと今更ながら感心した。

さて、今回初めてここを訪れて、ここには特に、私の研究分野である東西言語文化接触、とりわけ、イエズス会を中心としたヨーロッパの宣教師たちが著した漢学関係資料が豊富に残されていることが分かった。たとえば、Wieger Leon（中国名を戴遂良）の中国語で書かれた資料がこんなにあるとは思ってもいなかった。また、聖像画に関するものも多く、今後、詳細な調査が必要となるはずである。

以下、気がついたものを少し挙げておくこととする。

(1) Dictionarium Latino Nankinense (1857)……いわゆるラテン語–南京官話対訳語彙集であるが、南京官話研究には大いに役立つはずである。(図9–10)

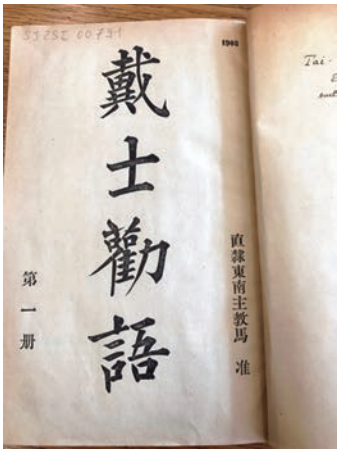
(2) Wieger 関係……10数種が所蔵されている。(図11)

(3) フランス語版『語言自邇集』(手書き)(図12)

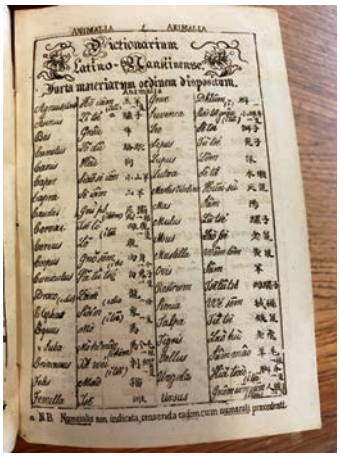
(4) 聖像画関係各種



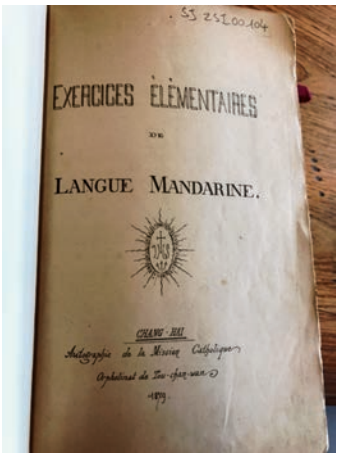
(図 9)



(図 11)



(図 10)



(図 12)